

第67回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょう。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



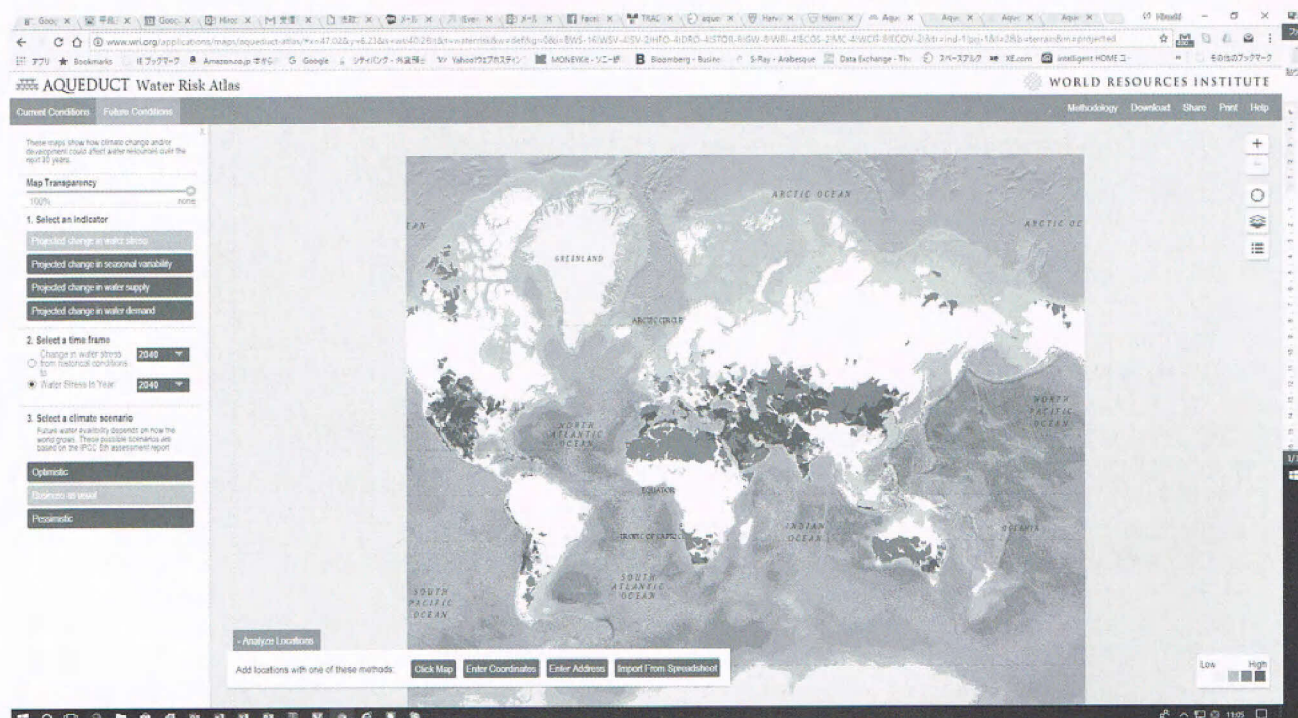
ウォーター問題

2018年に入り、例年よりも寒い気候が続いています。また、本寄稿を書いている2月上旬までに、日本海側では記録的な大雪に見舞われており、人々の生活や仕事に影響を及ぼしています。これも温室効果ガスによる気候温暖化の影響で、地球を流れる海流や偏西風の動きが変わることによって、異常気象が増えているということです。

今冬のような大雪や、ここ数年毎夏発生するゲリラ豪雨が起る日本は、気候温暖化の影響を大きく

受けている国の一つですが、資源としての水は豊富にあり、将来的にも恵まれている状況が続きます。

今回は、世界の水事情ということで、世界的な資源の調査・研究機関である世界資源研究所（WRI: World Resources Institute）の分析結果を報告します。WRIの分析は、各国単位で調査しています。水を使用する主要な三つの用途（産業用、生活用、農業用）を水需要とし、雨や雪、地下水などで得ら



(データ元: <http://www.wri.org/applications/maps/aqueduct-atlas/#x=47.02&y=6.23&s=ws!40!28!t&t=waterrisk&w=def&g=0&i=BWS-16!WSV-4!SV-2!HFO-4!DRO-4!STOR-8!GW-8!WRI-4!ECOS-2!MC-4!WCG-8!ECOV-2!&tr=ind-1!prj-1&l=2&b=terrain&m=projected>)

AQUEDUCT Water Risk Atlas 検索

順位	国名	全体スコア	産業用	家庭用	農業用
1	バーレーン	5.00	5.00	5.00	5.00
1	クウェート	5.00	5.00	5.00	5.00
1	カタール	5.00	5.00	5.00	5.00
1	サンマリノ	5.00	5.00	5.00	5.00
1	シンガポール	5.00	5.00	5.00	n.a.
1	アラブ首長国連邦	5.00	5.00	5.00	5.00
1	パレスチナ	5.00	5.00	5.00	5.00
8	イスラエル	5.00	5.00	5.00	5.00
9	サウジアラビア	4.99	5.00	5.00	5.00
10	オマーン	4.97	4.97	4.97	4.97

(データ：World Resources Institute, 2040 BAU, Aqueduct Water Stress Country Ranking Data Set)

れる水を水供給とします。この水の需給を2020年、2030年、2040年の期間で予測します。この予測も、現状通り、楽観的、悲観的の三つのパターンで期間毎に算出されます。

上のグラフは、水の需給が現状通りであった場合の2040年時点の状況です。前ページの地図は需給のストレス（ひっ迫度合い）によって色分けされています。本寄稿は白黒で記されており、以下、色の表現につきましては、赤色と記されているところは濃い黒色、灰色や黄色の部分の薄い黒色として前ページの地図をご覧ください。また、お手数ですが、地図の下に記載されているホームページアドレスからカラーの地図をご覧ください。薄い黄色はストレスが低く、赤はストレスが高くなります。赤に近い色ほど、水の需給がひっ迫していることを示しています。灰色は、砂漠地帯を示しており、水の供給も少ないですが、水を使用する人や産業があまり無い地域になります。そのため、この地図では灰色となっています。あまり分かりやすい色分けにはなっていませんが、日本は、沿岸部は黄色部分が広がっていますが、山間部・内陸部は赤色系の色で記されています。調査対象の世界161か国の中で、日本は2040年時点の水のストレスは72位となっており、世界の国々の中で、水のストレスは中程度になります。この順位はストレスが低いほど順位が低くなります。たとえば、順位が最も低い161位の国は南スーダンになりますが、水の使用量がそれほど多くないため、薄い黄色になっております。このように水のストレスがあまり無い国々は、水の使用量が少ないアフリカ中南部の地域や、気象上、水の供給の多い中米（パナマ、ベニン）やアジア（ブルネイ、ラオス）が低い順位になっています。

一方、上位の国々は、水のストレスが高い国です。現在も水不足で悩む国々が多く、2040年時点も現状のまま進めば、水不足が解消されません。上の表は、水のストレスの大きい上位10か国です。

このように、地図で赤色に染まっていた中東地域の国々が上位を占めました。これらの国々は水のストレスが大きく、水不足は深刻です。中東の国々が独占する上位10か国の中で、唯一、シンガポールが入りました。中東6か国と同じ1位としてランクされました。アジアでは日本を凌ぐ裕福な国であるシンガポールですが、水のストレスは世界で最も大きく、今後の同国の経済成長の足かせになりそうです。

その他、気づく点としましては、2040年には世界最大の経済大国になる可能性のある中国（48位）と、日本の経済規模を上回るであろうインド（40位）です。両国とも人口も世界1位2位の状況は2040年も変わらないのではないかと思います。中国は北京や上海などの大都市の集まる沿岸部が真っ赤に染まっており、内陸部は砂漠地帯が広がっています。インドも大都市が集まる北部から西海岸が赤く染まっています。経済成長を続けている両国ですが、今後、水不足が両国の経済へどのような影響を及ぼすのか注意してみていかなければならないでしょう。

略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント日本代表。アラベスク・アセットマネジメント日本代表。明治大学公共政策大学院および法政大学現代福祉学部兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンズオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」（ビエトラ・リポリ著 東洋経済新報社）「暴走する資本主義」「最後の資本主義」（ロバート・ライシュ著 東洋経済新報社）「ジェンガ 世界で2番目に売れているゲームの果てなき挑戦」（レスリー・スコット著 東洋経済新報社）などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。